

# 令和5年度 学校評価報告

草加市立花栗南小学校  
(令和6年2月6日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
<p>○考える子 ・夢や志が持てる子 ・自ら学び、自ら考える子 ・最後まで粘り強くやり抜く子</p> <p>○思いやりのある子 ・自分と仲間を大切にする子 ・正しく行動のできる子 ・お互いの良さを認め合える子</p> <p>○体をきたえる子 ・健康や安全に関心をもてる子 ・自ら進んで体をきたえる子 ・楽しく運動に取り組む子</p>	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
<p>1 一人ひとりの個に応じた教育を推進と確かな学力と生きる力の育成</p> <p>2 心潤う生徒指導による豊かな心の育成</p> <p>3 人権を大切にする教育の推進</p> <p>4 体育的活動の充実と体力の向上の推進</p> <p>5 安全・安心で美しく潤いのある教育環境の整備</p>	<p>成果</p> <p>○幼保小中を一貫した教育に係る研究を進めたことで、花栗中学校区において9年間の子供の学びを共通理解のもと進める取組を進めることができた。</p> <p>課題</p> <p>●幼保との連携を深め子どもの15年間の学びを共通理解のもと勧められるようにする</p>

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営目標、方針</li> <li>校務分掌組織</li> <li>適所への適材配置</li> <li>職員会議等の運営</li> <li>予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	B	<p>○教職員が一丸となり教育活動を推進することができた。</p> <p>●加配の枠が埋まっていないため、職員一人ひとりの負担が増えている。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	A	<p>○研究主任を中心に、花栗中学校区の連携が深まった。また、小中を一貫した教育の中での本校の学習スタイルとして確立してきた「花栗南スタイル」にICTを加え発展させることができた。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健計画、安全計画</li> <li>環境衛生の管理</li> <li>健康観察、安全点検</li> <li>緊急事態発生時の対応</li> <li>危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<p>○保健主事や養護教諭を中心にコロナ禍で行えなかった保護者が参加する学校保健委員会を行った。</p> <p>○安全主任が中心に、年3回の避難訓練や毎月の安全点検の実施。不審者対応では、警察の協力を得て訓練を行うなど、児童や教職員の危機管理の意識が高まった</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理、保護</li> <li>施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	B	<p>○情報教育主任を中心に、個人情報の管理について徹底したことで、学校事故0が継続された。</p> <p>●校舎の老朽化に伴い、修理箇所が増えてきている。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の発信</li> <li>学校公開の実施</li> <li>学校運営協議会の推進</li> <li>地域、校種間連携</li> <li>PTA活動の活性化</li> </ul>	A	<p>○学校運営協議会を適切に運営し、開かれた学校づくりが推進された。</p> <p>○地域の朝会のイベントに児童が参加するなど連携した取組が推進された。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像の共有</li> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	A	<p>○委嘱研究を進めたことで、花栗中学校区3校が共通理解のもと系統立て、一貫した教育活動を推進することができた。</p> <p>○令和4年度から再開している幼稚園との交流事業を増やし、更に充実させた。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<p>○教育目標の具現化に向けて、授業改善をしながら適切に教育計画を進めることができた。</p> <p>●教員の働き方改革が推進できる教育課程の工夫が必要である。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	○花栗南スタイルの確立により、どの学級においても同様かつ児童の実態に合わせた授業を進めることができた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<p>○県教育委員会の事業や、市の研究委嘱を受けることにより、指導者を招聘した道徳科の授業研究を行うことができた。</p> <p>○道徳主任が積極的に師範授業を行ったり、道徳だよりを発行したりすることで学校全体の教職員の指導力向上が図られた。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<p>○中学校教員の乗り入れ授業やALTの活用など効果的な授業の実践ができた。</p> <p>●乗り入れ授業等、中学校との更なる連携を進めていく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<p>○異学年交流や全校で集まる機会など対面での行事を増やし児童のより良い人間関係の構築を図ることができた。</p> <p>●活動の再開を進めるうえで教育課程の見直しを図る必要がある。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○地域や学校に根付いた計画が立てられている。</p> <p>●教科横断的な学び、学際的な学びの実現に向けた教育課程の見直しが必要である。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	○生徒指導主任を中心に、問題の未然防止の取組を計画的に進めるとともに、問題行動に対しては関係機関や保護者とも協力し適切な対応が行われている。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○小中連携により9年間を見通したキャリア教育の推進が図られた。</p> <p>●キャリアパスポートは活用されているが、より効果的な方法について検討していく。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<p>○花栗南スタイルを通じ、授業スタイルを統一化したことですべての児童が安心して授業に取り組むことができています。</p> <p>●特別な支援を要する児童の支援方法について教職員が理解を深める必要がある。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<p>○学校司書が中心になり、図書館補助員の協力のもと学校図書館の環境整備が図られ読書自慢の児童の育成ができた。</p> <p>○学校応援団を活用した読み聞かせの時間の充実が図られた。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○タブレット等の効果的な活用方法について、研究を進めることができた。</p> <p>●情報モラルに係る児童が中心になった利用のきまりについて作成を進めている。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○人権作文や人権標語に全校で取り組んだ。</p> <p>●教育活動全体で機会をとらえて人権教育が行えるよう教職員の研修に努める必要がある。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	あいさつじまん	・あいさつ	B	○代表委員を中心に地域の「あいさつの会」の方と行っている朝のあいさつ運動に有志の児童も参加するなど活性化が図れた。 ●いつでもどこでも誰とでもあいさつのできる児童の育成。
	どくしょじまん	・読書	A	○校内でビブリオバトルの実施、学校応援団による読み聞かせの対面での実施等、読書活動を充実させることができた。
	そうじじまん	・掃除	B	○学校をきれいにしようとい欲的に掃除に取り組んでいる。 ●コロナ禍で掃除が十分に取組めなかったこともあり、掃除の技能が身につけていない、丁寧に指導する必要がある。

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

- ・保護者による「学校教育アンケート」において、調査した17項目中9項目で肯定的な評価が前年度を上回った。特に、「児童の思いやりの心の育成」に係る項目については、3.1ポイント肯定的な評価が増えた。
- ・2年間にわたり花栗中学校区で一貫した教育に係る研究に取り組んだことにより小中学校の連携という縦のつながりや、小山小学校との横のつながりについて深めることができた。
- ・学校から家庭への連絡手段としてすぐーるの活用促進を図った。今後もさらに活用を進めていく。
- ・施設の老朽化部分の修理や学習環境の整備については、多くの箇所を整備することができた。
- ・ICTの活用について花栗南スタイルの中での活用方法について理解が深まった。児童が主体的に取り組む「スマーとフォン利用のきまり」について児童会を中心に作成を進めることができた。

**6 次年度の改善策**

- ・施設の老朽化による危険個所の把握と計画的な修繕。
- ・不審者の侵入防止の取組や対策
- ・花栗南小学校の授業スタイルである花栗南スタイルの更なる進化
- ・児童の未来を創る力を育成するための教育課程の研究及び家庭学習の取組の工夫
- ・不登校に対する適切な対応やその家庭全体を支援するための関係機関との円滑な連携